

令和2年度 個人積算線量測定事業
小中学生の第3回測定結果を
お知らせします



令和3年3月12日
郡山市教育委員会
学校教育部学校管理課
担当：小関 梓彩
TEL：924-3421

SDGs ターゲット 3.9 「大気の汚染による疾病件数を大幅に減少させる」

小中学生を対象とした令和2年度個人積算線量測定事業（第3回）の結果は次のとおりです。
なお、測定結果については、郡山市原子力災害対策アドバイザーの方々から、測定者全員が
「健康に影響を与えるような数値ではない」とする専門的な見解をいただいております。

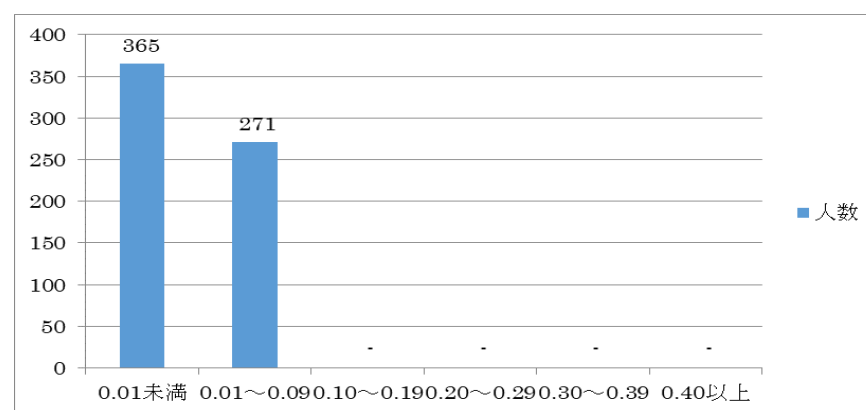
また、小中学生における令和2年度第1回目及び第2回目の年間推計平均被ばく量について、
0.09mSvとしておりましたが、0.10mSvに訂正いたします。

- 1 測定概要 (1) 測定者数 636人
- (2) 測定対象期間 令和2年11月6日(金)～令和3年1月14日(木) 70日間
- (3) その他 測定結果の数値は、測定対象期間の自然放射線被ばく相当量 0.12mSvを除いた数値です。

2 測定結果

	測定値(70日間)	年間推計値
最高値(mSv)	0.07	0.37
最低値(mSv)	0.01 未満	0.05 未満
平均値(mSv)	0.01	0.05

第2回測定結果分布図



(参考：年間推計値)

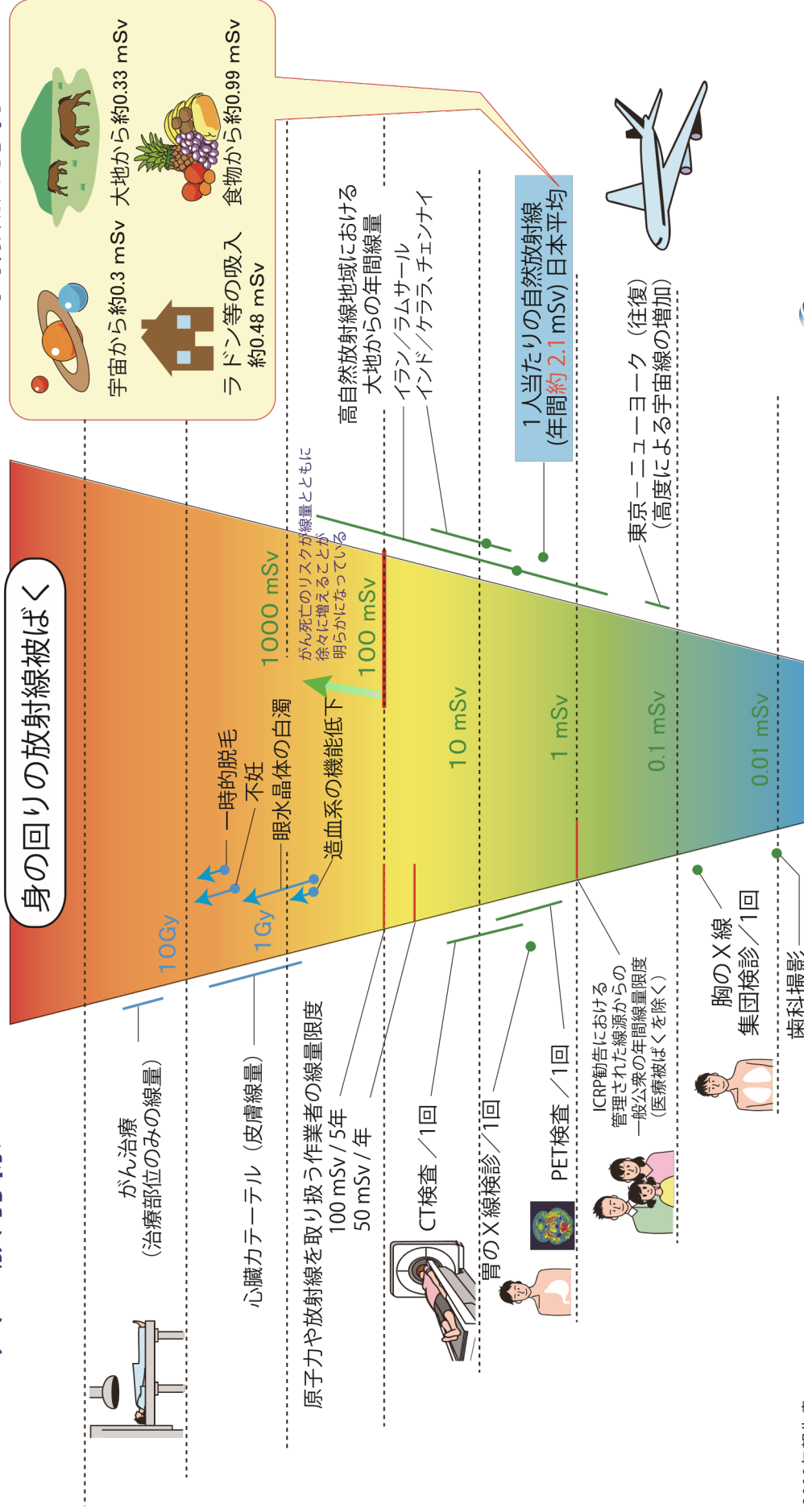
	1 mSv 未満	1 mSv 以上 2 mSv 未満	2 mSv 以上	合計
人数	636 人	0 人	0 人	636 人
割合	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%

※ 放射線被ばくについては、裏面の資料を参考願います。

放射線被ばくの早見図

人工放射線

自然放射線



・ UNSCEAR 2008年報告書

・ ICRP 2007年勧告

・ 日本放射線技術師会医療被ばくガイドライン

・ 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定)

などにより、放医研が作成 (2013年5月)

【ご注意】

- 1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
- 2) 目盛 (点線) は対数表示になっていません。目盛がひとつ上がる度に10倍となります。
- 3) この図は、引用している情報が更新された場合変更される場合があります。

【線量の単位】

各臓器・組織における吸収線量: Gy (グレイ)

放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりにどれくらいのエネルギーを受けたのかを表す物理的な量。

実効線量: mSv (ミリシーベルト)

臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝性影響の感受性について重み付けをして全身で足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。

各部位に均等に、ガンマ線 1 Gy の吸収線量を全身に受けた場合、実効線量で1000 mSvに相当する。



QST 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構

放射線医学総合研究所

<http://www.qst.go.jp>



Ver 180516